

# 目次

<b>1 正負の数の意味</b>	4	<b>9 文字式の計算</b>	50
1 正の数・負の数		1 1次式と数の積	
2 正負の数を使った量の表し方		2 1次式を数でわった商	
3 数直線		3 分配法則を用いた計算	
4 絶対値と数の大小		4 分数をふくむ式の計算	
<b>2 正負の数の加減(1)</b>	10	5 分配法則を用いた四則計算	
1 数直線を利用した正の数の加減		6 分数をふくむ式の四則計算	
2 数直線を利用した負の数の加減		7 速さに関する問題	
3 絶対値と正負の数の加法		8 割合に関する問題	
4 絶対値と正負の数の減法		9 規則性に関する問題	
<b>3 正負の数の加減(2)</b>	16	<b>10 関係を表す式</b>	58
1 加法の計算法則		1 等式	
2 3数以上の加減		2 不等式による表現	
<b>4 正負の数の乗除</b>	20	3 比例式	
1 正負の数の乗法		4 円に関する公式	
2 正負の数の除法		<b>11 文字式のまとめ</b>	64
3 3数以上の積と累乗		<b>発展学習① 文字式</b>	68
4 正負の数の乗除混合計算		1 式の計算	
5 四則計算の可能性		2 単項式と単項式の乗除	
<b>5 正負の数の四則計算</b>	26	3 分配法則による計算	
1 加減乗除の混じった計算		4 式の展開	
2 カッコのある四則計算		5 式の値	
3 累乗のある四則計算		<b>12 方程式とその解</b>	72
4 分配法則と計算の工夫		1 方程式とその解	
5 正負の数の利用		2 等式の性質	
<b>6 正負の数のまとめ</b>	32	3 等式の性質を用いた方程式の解法	
<b>7 文字式の表し方</b>	36	4 移項を用いた方程式の解き方	
1 文字を使った積の表し方		<b>13 方程式の解法</b>	76
2 商の表し方		1 分配法則を用いた方程式の解法	
3 文字式の表し方のまとめ		2 小数をふくむ方程式の解法	
4 数量の表し方		3 分数をふくむ方程式の解法	
5 整数の表し方		4 比例式で表された方程式の解法	
6 平均の表し方		5 定数の求め方	
7 単位の換算		<b>14 方程式の応用(1)</b>	82
8 道のり・時間・速さの表し方		1 方程式の応用	
9 割合の表し方		2 和と差に関する問題	
<b>8 式の値・同類項</b>	44	3 和と積に関する問題	
1 文字式の意味と式の値		4 分配に関する問題	
2 式の項・係数		5 増減に関する問題	
3 同類項		6 平均に関する問題	
4 1次式の加減		7 過不足に関する問題	
5 1次式どうしの和			
6 1次式どうしの差			

# CONTENTS



## 15 方程式の応用(2) 90

- 1 速さ①時間を求める問題
- 2 速さ②道のりを求める問題
- 3 割合①百分率・歩合
- 4 割合②濃度に関する問題
- 5 全体を1とする問題

## 16 方程式のまとめ 98

### 発展学習② 方程式 104

- 1 2元1次方程式とその解
- 2 連立方程式の解法①
- 3 連立方程式の解法②
- 4 連立方程式の応用①
- 5 連立方程式の応用②
- 6 連立方程式の応用③

## 17 比例 112

- 1 関数と比例
- 2 比例する2つの量の変わり方
- 3 変域に負の数を考える比例
- 4 比例の式を求める方法
- 5 比例の利用

## 18 座標と比例のグラフ 118

- 1 座標
- 2 比例のグラフ
- 3 直線の式の求め方
- 4 直線上の座標

## 19 反比例とそのグラフ 124

- 1 反比例
- 2 反比例の式を求める方法
- 3 反比例の利用
- 4 反比例のグラフ

## 20 比例・反比例のまとめ 130

### 発展学習③ 関数 134

- 1 1次関数
- 2 1次関数の変化の割合
- 3 1次関数のグラフ
- 4 直線の式
- 5 2直線の交点の座標
- 6 座標平面上の図形の面積

## 21 直線・角・垂直と平行 142

- 1 直線
- 2 角・三角形
- 3 垂直と平行

## 22 対称と移動 148

- 1 線対称
- 2 点対称
- 3 正多角形
- 4 図形の移動
- 5 合同

## 23 円とおうぎ形 156

- 1 円
- 2 接線と弦
- 3 おうぎ形の弧の長さと同面積

## 24 作図 162

- 1 垂直二等分線
- 2 角の二等分線
- 3 垂線の作図
- 4 いろいろな作図

## 25 平面図形のまとめ 168

### 発展学習④ 平面図形 172

- 1 図形の基本性質
- 2 三角形の合同

## 26 いろいろな立体 178

- 1 角柱・角錐
- 2 円柱・円錐
- 3 多面体
- 4 立体のいろいろな見方

## 27 空間内の位置関係 186

- 1 平面・2直線の位置関係
- 2 直線と平面・平面と平面の位置関係
- 3 線や面の移動と立体
- 4 立体の切断

## 28 表面積・体積 194

- 1 角柱・円柱の表面積・体積
- 2 角錐・円錐の表面積・体積
- 3 球の表面積・体積

## 29 空間図形のまとめ 202

## 30 資料の活用 209

- 1 度数分布
- 2 代表値
- 3 相対度数
- 4 近似値

## Point ① 正の数・負の数

● **正の数・負の数**……0を基準にして、0より大きい数、小さい数で、数を分類したとき、0より小さい数を負の数、0より大きい数を正の数という。

数は、負の数、0、正の数からなる。

負の数……負の符号「-」（マイナス）をつけて表す。

例 ① 0より1小さい数 → -1

② 0より $\frac{5}{2}$ 小さい数 →  $-\frac{5}{2}$

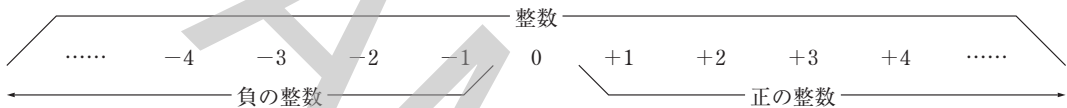
正の数……負の数に対して正の数は、正の符号「+」（プラス）をつけて表すことがある。

今までに扱ってきた数は、0と正の数である。

例 ① 0より1大きい数 → +1

② 0より $\frac{5}{2}$ 大きい数 →  $+\frac{5}{2}$

● **整数**……負の整数、0、正の整数を合わせた全体。正の整数を自然数ともいう。



## 確認問題 ① 次の問いに答えなさい。

□(1) 次の数を正・負の符号をつけて表しなさい。

\*□① 0より3大きい数

\*□② 0より5小さい数

□③ 0より4.5大きい数

□④ 0より3.2小さい数

□⑤ 0より $\frac{3}{4}$ 大きい数

□⑥ 0より $\frac{8}{5}$ 小さい数

□(2) 次の空欄にあてはまる数を答えなさい。

\*□① 0より.....大きい数は+8である。

□② 0より.....大きい数は $+\frac{2}{9}$ である。

\*□③ 0より.....小さい数は-7である。

□④ 0より.....小さい数は $-\frac{7}{3}$ である。

□(3) 次の空欄にあてはまる数をふくむ語句を答えなさい。

\*□① +10は、0より.....数である。

□② +0.35は、0より.....数である。

\*□③ -108は、0より.....数である。

□④  $-\frac{19}{7}$ は、0より.....数である。

## Point ② 正負の数を使った量の表し方

● **正の数・負の数の利用**……反対の性質をもつ量や、基準からの隔たりなどは、正の数と負の数を使うと、数で表すことができる。

- ① 互いに反対の性質をもつ量は、一方を正の数、もう一方を負の数で表すと、数値で比較することができる。

**例** 800 円の利益を  $+800$  と表す  $\rightarrow$  800 円の損失は  $-800$

- ② ある基準を設けたとき、そこからの増減や過不足は、正の数と負の数を使って表すことができる。

**例** テストの目標得点を 80 点としたとき  $\rightarrow$  94 点… $+14$  点      50 点… $-30$  点

**確認問題 2** 次の問いに答えなさい。

□(1) 次の空欄にあてはまる数を答えなさい。

\*□① 200 円の値上げを  $+200$  と表すとき、500 円の値下げは \_\_\_\_\_ と表すことができる。

□② 気温が  $5^{\circ}\text{C}$  上昇することを  $+5$  と表すとき、気温が  $2^{\circ}\text{C}$  下降することは \_\_\_\_\_ と表すことができる。

\*□③ 15 人の減少を  $-15$  と表すとき、8 人の増加は \_\_\_\_\_ と表すことができる。

□④ 2000 円の赤字を  $-2000$  と表すとき、3000 円の黒字は \_\_\_\_\_ と表すことができる。

□(2) 次の文を、負の数を使わないいい方に直しなさい。

\*□①  $-50$  円の値下げ

□② 気温の  $-4^{\circ}\text{C}$  の下降

\*□③  $-20$  人の増加

□④  $-5$  万円の黒字

\*□(3) 次の表は、晴香さんの 5 教科のテストの得点を、70 点を基準として正負の数を用いて表そうとしたものである。空欄にあてはまる数を答えなさい。

教科	国語	数学	英語	理科	社会
得点	59	78	92	63	78
70 点との違い					

(単位 点)

□(4) 次の表は、翔太君が毎月 1 日に体重をはかった結果を、1 月 1 日の体重  $41.3\text{kg}$  を基準にし、その体重との違いを正負の数を用いて表そうとしたものである。空欄にあてはまる数を答えなさい。

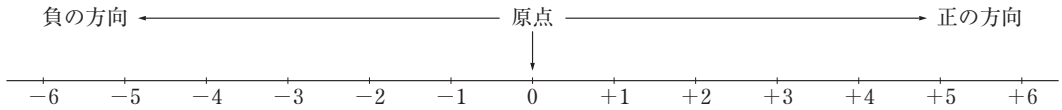
日付	1 月 1 日	2 月 1 日	3 月 1 日	4 月 1 日	5 月 1 日
体重	41.3	43.2	40.1		
$41.3\text{kg}$ との違い	0			$+0.8$	$-1.6$

(単位  $\text{kg}$ )

## Point 3 数直線

● **数直線**……1つの直線上に、基準となる点を決め、この点に数0を対応させる。次に、0から左側に向かって等間隔に負の整数  $-1, -2, -3, \dots$ 、右側に向かって等間隔に正の整数  $+1, +2, +3, \dots$  を順にとり、この一定の間隔を単位として、整数の間に小数や分数を対応させた直線を、数直線という。

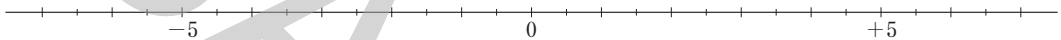
- ① 数0に対応する点を原点という。
- ② 数直線上で、右の方向を正の方向、左の方向を負の方向という。



**確認問題 3** 次の問いに答えなさい。

\*□(1) 次の数に対応する点を、下の数直線に示しなさい。

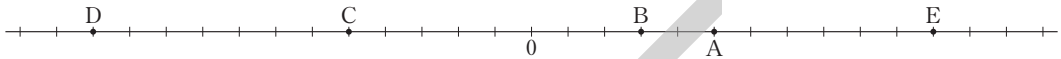
- ①  $+4$       □②  $-4$       □③  $+3.5$       □④  $-4.5$       □⑤  $-\frac{13}{2}$



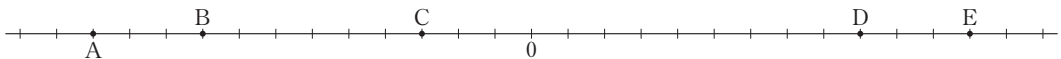
\*□(2) 次の数直線で、点A～Hに対応する数を答えなさい。



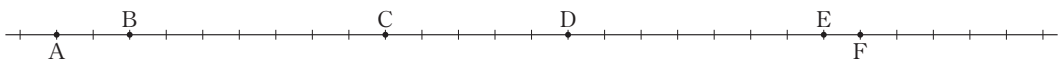
□(3) 次の数直線で、点Aが+5に対応するとき、点B～Eに対応する数を答えなさい。



□(4) 次の数直線で、点Aが-4に対応するとき、点B～Eに対応する数を答えなさい。



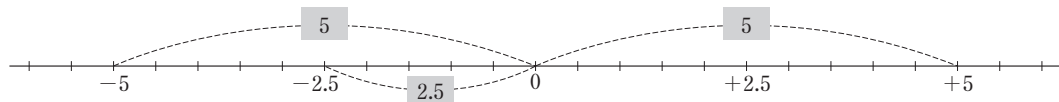
□(5) 次の数直線で、点Aが-8、点Fが+3に対応するとき、点B～Eに対応する数を答えなさい。



## Point 4 絶対値と数の大小

● **絶対値**……数直線上における1つの数に対応する点と原点(0)との距離。その数から、正負の符号を取ったものになる。 \* 0の絶対値は0である。

例 ① +5の絶対値 → 5                      ② -5の絶対値 → 5                      ③ -2.5の絶対値 → 2.5



● **数の大小**……数直線上では、右側(正の方向)にある数ほど大きい。したがって、次のことがいえる。

・ **正の数**……正の数どうしでは、絶対値が大きいほど大きい。

・ **負の数**……負の数どうしでは、絶対値が小さいほど大きい。

負の数 < 0 < 正の数

\* **不等号**……「<」, 「>」は大小を表す記号で、不等号という。「<」は左の数より右の数の方が大きいことを, 「>」は右の数より左の数の方が大きいことを表す。

例 ① +6.1と+6.01の大小…… $6.1 > 6.01 \rightarrow +6.1 > +6.01$

②  $-\frac{3}{2}$ と $-\frac{4}{3}$ の大小…… $\frac{3}{2} = 1.5, \frac{4}{3} = 1.33\cdots \rightarrow \frac{3}{2} > \frac{4}{3} \rightarrow -\frac{3}{2} < -\frac{4}{3}$

### 確認問題 4 次の問いに答えなさい。

\*□(1) 次の数の絶対値を答えなさい。

□① -3

□② +2

□③ +3.2

□④  $-\frac{19}{3}$

\*□(2) 絶対値が1である数をすべて答えなさい。

□(3) 絶対値が最も小さい数を答えなさい。

\*□(4) 絶対値が5より小さい整数をすべて答えなさい。

□(5) 数直線上での距離が6である2つの数のうち、絶対値が等しいものを答えなさい。

□(6) 次の.....にあてはまる不等号を答えなさい。

\*□①  $+4 \dots\dots -1$

□②  $+2.5 \dots\dots +2.05$

□③  $+\frac{11}{5} \dots\dots +\frac{13}{6}$

\*□④  $-5 \dots\dots -1$

□⑤  $-0.01 \dots\dots -0.1$

□⑥  $-\frac{9}{7} \dots\dots -\frac{7}{6}$

□(7) 次の各組の数の大小を不等号を用いて表しなさい。

□① +1.02, +1.2, +1.002

\*□② -3, -3.01, -3.5

\*□③ +2, +5, 0, -4, -2

□④ -1, -0.8, -1.1, -0.1

# 練成問題 A

**\* 1** 次の数を +, - をつけて表しなさい。

→ **Point ①**

(1) 0 より 7 大きい数

\*  (2) 0 より 6 小さい数

(3) 0 より 0.1 大きい数

(4) 0 より  $\frac{3}{4}$  小さい数

**2** 次のことがらを負の数を使わないいいかたに直しなさい。

→ **Point ②**

\*  (1) -2 割の値上げ

(2) 気温が  $-5^{\circ}\text{C}$  上昇する

\*  (3) 人数が -6 人減少した

(4) -500 円の利益を得た

**3** 次の問いに答えなさい。

→ **Point ③**

\*  (1) 次の数に対応する点を, 下の数直線上に示しなさい。

① +2

② -3

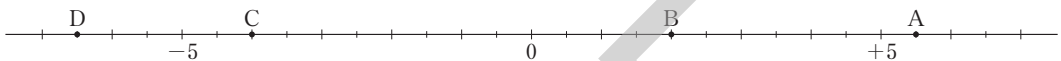
③ -2.5

④ +0.75

⑤  $-\frac{7}{4}$



\*  (2) 次の数直線上の点 A ~ D に対応する数を答えなさい。



**4** 次の数の絶対値を答えなさい。

→ **Point ④**

\*  (1) +6

\*  (2) -3.5

\*  (3) 0

(4) +12.6

(5) -100

(6)  $-\frac{3}{7}$

**5** 次の数の大小を不等号を用いて表しなさい。

→ **Point ④**

\*  (1) +4, -5

(2) 0, -3

(3) +2.3, +4.8

\*  (4)  $-\frac{9}{2}$ ,  $-\frac{37}{6}$ , -1

(5) -2, -2.5, -2.1

(6)  $+\frac{1}{3}$ , -1.7, -2

## 練成問題 B

- 1** 表の A 欄には、悠太君の数学のテストの得点が、B 欄には、悠太君の目標得点である 85 点よりどれだけ高かったかが記入されている。表中の空欄にあてはまる数を答えなさい。

回数	1	2	3	4	5	6	7
A	90	83			100	76	
B	+5		0	-14			+3

- 2** 次の数を、小さいものから順に左から並べなさい。また、絶対値の小さい順に左から並べなさい。

\* (1)  $+0.4, -0.08, -0.5, -\frac{3}{4}, +0.25, 0$

(2)  $+\frac{2}{5}, -\frac{11}{2}, +\frac{1}{2}, -\frac{1}{4}, 0, -6, -\frac{1}{3}$

- 3** 図のように、数直線上に点 A から順に等間隔に 10 個の点 A ~ J をとった。あとの問いに答えなさい。



- \* (1) 点 C に対応する数が  $-4$ 、点 H に対応する数が  $+1$  であるとき、点 F に対応する数を答えなさい。

- (2) 点 F を原点とし、点 E に対応する数を  $-1$  とする。

- ① 点 A ~ J のうち、絶対値が最大になる点に対応する数を答えなさい。

- ② 点 A ~ J のうち、絶対値が  $0$  より大きく  $4$  より小さいような範囲にある点をすべて答えなさい。

- 4** 次の問いに答えなさい。

- (1) 数直線上で、 $-8$  から  $+15$  までの距離を求めなさい。

- \* (2) 絶対値が等しく、差が  $10$  である 2 つの数を答えなさい。

- (3)  $-1.6$  より小さい整数のうち、最も大きいものを答えなさい。

- \* (4)  $-\frac{13}{3}$  より大きい整数のうち、最も小さいものを答えなさい。

- (5)  $-\frac{1}{4}$  より大きく、 $-\frac{1}{9}$  より小さい既約分数のうち、 $36$  を分母とするものを答えなさい。

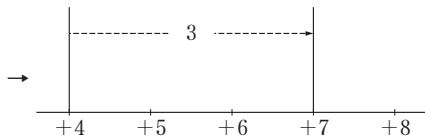


## Point 1 数直線を利用した正の数の加減

- 正の数をたす計算……「正の数をたす」＝「たす数だけ大きい数を求める」＝「数直線上でたす数の絶対値だけ右へ移動した点に対応する数を求める」

例 ①  $(+4) + (+3)$

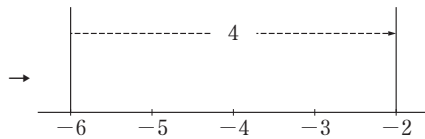
→ +4 より 3 大きい数を求める



→  $(+4) + (+3) = +7$

例 ②  $(-6) + (+4)$

→ -6 より 4 大きい数を求める

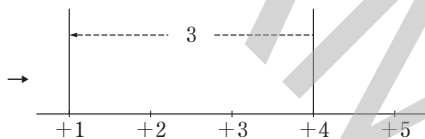


→  $(-6) + (+4) = -2$

- 正の数をひく計算……「正の数をひく」＝「ひく数だけ小さい数を求める」＝「数直線上でひく数の絶対値だけ左に移動した点に対応する数を求める」

例 ①  $(+4) - (+3)$

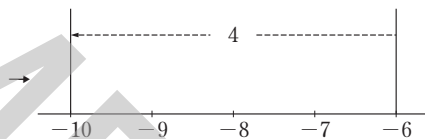
→ +4 より 3 小さい数を求める



→  $(+4) - (+3) = +1$

例 ②  $(-6) - (+4)$

→ -6 より 4 小さい数を求める



→  $(-6) - (+4) = -10$

## 確認問題 1 次の問いに答えなさい。

- (1) 次の数を、数直線上で考えて答えなさい。

\*□① +1 より 3 大きい数

\*□② -3 より 4 大きい数

□③ -9 より 5 大きい数

\*□④ +8 より 3 小さい数

\*□⑤ +2 より 5 小さい数

□⑥ -6 より 7 小さい数

- (2) 数直線を利用して次の計算をしなさい。

\*□①  $(+2) + (+3)$

□②  $(+4) + (+6)$

□③  $(+2) + (+9)$

\*□④  $(-3) + (+6)$

□⑤  $(-1) + (+9)$

□⑥  $(-8) + (+5)$

\*□⑦  $(+7) - (+3)$

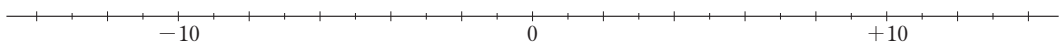
□⑧  $(+2) - (+3)$

□⑨  $(+1) - (+10)$

\*□⑩  $(-3) - (+2)$

□⑪  $(-1) - (+8)$

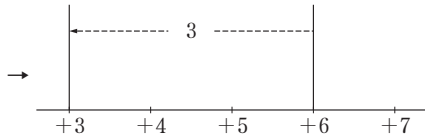
□⑫  $(-7) - (+5)$



## Point 2 数直線を利用した負の数の加減

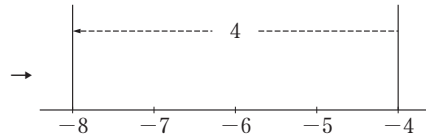
● **負の数をたす計算**……「負の数をたす」＝「正の数をひく」＝「数直線上でひく数の絶対値だけ左へ移動した点に対応する数を求める」

例 ①  $(+6) + (-3)$   
 $= (+6) - (+3)$



→  $(+6) + (-3) = +3$

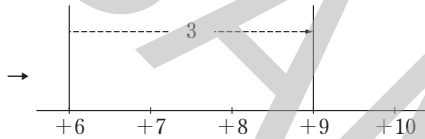
例 ②  $(-4) + (-4)$   
 $= (-4) - (+4)$



→  $(-4) + (-4) = -8$

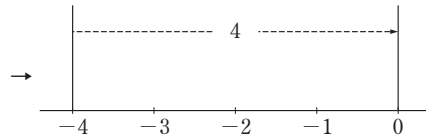
● **負の数をひく計算**……「負の数をひく」＝「正の数をたす」＝「数直線上でひく数の絶対値だけ右に移動した点に対応する数を求める」

例 ①  $(+6) - (-3)$   
 $= (+6) + (+3)$



→  $(+6) - (-3) = +9$

例 ②  $(-4) - (-4)$   
 $= (-4) + (+4)$



→  $(-4) - (-4) = 0$

**確認問題 2** 次の問いに答えなさい。

□(1) 次のことを、負の数を使わないいいかたになおしなさい。

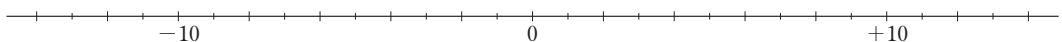
- \*□①  $-3$ をたす      □②  $-8$ をたす      \*□③  $-5$ をひく      □④  $-7$ をひく

□(2) 次の数を、数直線上で考えて答えなさい。

- \*□①  $+1$ より $-3$ 大きい数      □②  $-3$ より $-4$ 大きい数      □③  $-9$ より $-5$ 大きい数  
 \*□④  $+8$ より $-3$ 小さい数      □⑤  $+2$ より $-5$ 小さい数      □⑥  $-6$ より $-7$ 小さい数

□(3) 数直線を利用して次の計算をしなさい。

- \*□①  $(+2) + (-3)$       □②  $(+4) + (-6)$       □③  $(+2) + (-9)$   
 \*□④  $(-3) + (-6)$       □⑤  $(-1) + (-9)$       □⑥  $(-8) + (-5)$   
 \*□⑦  $(+7) - (-3)$       □⑧  $(+2) - (-3)$       □⑨  $(+1) - (-10)$   
 \*□⑩  $(-3) - (-2)$       □⑪  $(-1) - (-8)$       □⑫  $(-7) - (-5)$



**Point 3****絶対値と正負の数の加法****● 加法**

① 同符号どうしの加法……絶対値の和に、共通の符号をつける。

**例** ①  $(+3) + (+4)$   
 $= +(3+4)$   
 $= +7$

②  $(-6) + (-4)$   
 $= -(6+4)$   
 $= -10$

② 異符号どうしの加法……絶対値の差に、絶対値の大きい方の符号をつける。

**例** ①  $(-3) + (+4)$   
 $= +(4-3)$   
 $= +1$

②  $(-6) + (+4)$   
 $= -(6-4)$   
 $= -2$

**確認問題 3** 次の計算をしなさい。

\* (1)  $(+2) + (+5)$

(2)  $(+5) + (+5)$

(3)  $(+6) + (+9)$

\* (4)  $(+6) + (+2)$

(5)  $(+7) + (+6)$

(6)  $(+4) + (+8)$

\* (7)  $(-3) + (-5)$

(8)  $(-5) + (-2)$

(9)  $(-8) + (-9)$

\* (10)  $(-1) + (-2)$

(11)  $(-7) + (-3)$

(12)  $(-8) + (-2)$

\* (13)  $(-5) + (-7)$

(14)  $(-6) + (-6)$

(15)  $(-4) + (-9)$

\* (16)  $(+1) + 0$

(17)  $(-6) + 0$

(18)  $0 + (-8)$

\* (19)  $(+5) + (-2)$

(20)  $(+7) + (-6)$

(21)  $(+9) + (-1)$

\* (22)  $(+3) + (-7)$

(23)  $(+6) + (-8)$

(24)  $(+2) + (-7)$

\* (25)  $(-1) + (+5)$

(26)  $(-4) + (+2)$

(27)  $(-8) + (+9)$

\* (28)  $(-7) + (+2)$

(29)  $(-5) + (+8)$

(30)  $(-6) + (+2)$

\* (31)  $(+5) + (-6)$

(32)  $(-3) + (+4)$

(33)  $(+8) + (-7)$

\* (34)  $(-6) + (+3)$

(35)  $(-1) + (+7)$

(36)  $(+1) + (-4)$

\* (37)  $(-3) + (+3)$

(38)  $(+7) + (-7)$

(39)  $(-9) + (+9)$

**Point 4****絶対値と正負の数の減法**

●減法……「正の数をひく」＝「負の数をたす」, 「負の数をひく」＝「正の数をたす」より, 減法は, ひく数の符号を変えることによって加法になおすことができる。

**例** ①  $(+3) - (+4)$   
 $= (+3) + (-4)$   
 $= -(4-3)$   
 $= -1$

②  $(-6) - (+4)$   
 $= (-6) + (-4)$   
 $= -(6+4)$   
 $= -10$

③  $(-3) - (-4)$   
 $= (-3) + (+4)$   
 $= +(4-3)$   
 $= +1$

④  $(+6) - (-4)$   
 $= (+6) + (+4)$   
 $= +(6+4)$   
 $= +10$

**確認問題 4** 次の計算をしなさい。

\* (1)  $(+2) - (+5)$

(2)  $(+5) - (+5)$

(3)  $(+6) - (+9)$

\* (4)  $(+6) - (+2)$

(5)  $(+7) - (+6)$

(6)  $(+4) - (+8)$

\* (7)  $(-3) - (-5)$

(8)  $(-5) - (-2)$

(9)  $(-8) - (-9)$

\* (10)  $(-1) - (-2)$

(11)  $(-7) - (-3)$

(12)  $(-8) - (-2)$

\* (13)  $(-5) - (-7)$

(14)  $(-6) - (-6)$

(15)  $(-4) - (-9)$

\* (16)  $(+1) - 0$

(17)  $(-3) - 0$

(18)  $0 - (-8)$

\* (19)  $(+5) - (-2)$

(20)  $(+7) - (-6)$

(21)  $(+9) - (-1)$

\* (22)  $(+3) - (-7)$

(23)  $(+6) - (-8)$

(24)  $(+2) - (-7)$

\* (25)  $(-1) - (+5)$

(26)  $(-4) - (+2)$

(27)  $(-8) - (+9)$

\* (28)  $(-7) - (+2)$

(29)  $(-5) - (+8)$

(30)  $(-6) - (+2)$

\* (31)  $(+5) - (-6)$

(32)  $(-3) - (+4)$

(33)  $(+8) - (-7)$

\* (34)  $(-6) - (+3)$

(35)  $(-1) - (+7)$

(36)  $(+1) - (-4)$

# 練成問題 A

1 次の計算をなさい。

→ Point ③

- |                        |                       |                       |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| *□(1) $(+1) + (+2)$    | □(2) $(-2) + (-3)$    | □(3) $(+3) + (-4)$    |
| *□(4) $(-4) + (+5)$    | □(5) $(+4) + (+2)$    | □(6) $(-5) + (-3)$    |
| *□(7) $(+7) + (-5)$    | □(8) $(-9) + (+7)$    | □(9) $(+6) + (+6)$    |
| *□(10) $(-6) + (-6)$   | □(11) $(+6) + (-6)$   | □(12) $(-6) + (+6)$   |
| *□(13) $(+4) + 0$      | □(14) $(-4) + 0$      | □(15) $0 + (+4)$      |
| *□(16) $0 + (-4)$      | □(17) $(+4) + (+10)$  | □(18) $(-12) + (+7)$  |
| *□(19) $(+11) + (-3)$  | □(20) $(-16) + (-9)$  | □(21) $(-11) + (+12)$ |
| *□(22) $(+23) + (+14)$ | □(23) $(-17) + (-18)$ | □(24) $(+24) + (-27)$ |

2 次の計算をなさい。

→ Point ④

- |                        |                       |                       |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| *□(1) $(+1) - (+5)$    | □(2) $(-5) - (-9)$    | □(3) $(+3) - (-7)$    |
| *□(4) $(-4) - (-8)$    | □(5) $(+8) - (+2)$    | □(6) $(-7) - (-5)$    |
| *□(7) $(+9) - (-4)$    | □(8) $(-8) - (+3)$    | □(9) $(+4) - (+4)$    |
| *□(10) $(-4) - (-4)$   | □(11) $(+4) - (-4)$   | □(12) $(-4) - (+4)$   |
| *□(13) $(+6) - 0$      | □(14) $(-6) - 0$      | □(15) $0 - (+6)$      |
| *□(16) $0 - (-6)$      | □(17) $(+23) - (+5)$  | □(18) $(-28) - (+7)$  |
| *□(19) $(-39) - (-8)$  | □(20) $(+5) - (-48)$  | □(21) $(+6) - (+29)$  |
| *□(22) $(+27) - (-19)$ | □(23) $(-25) - (-36)$ | □(24) $(-31) - (+42)$ |

## 練成問題 B

**1** 次の計算をなさい。

\*□(1)  $(+0.2) + (-0.5)$

□(2)  $(+0.8) - (+0.1)$

□(3)  $(-0.2) + (-0.9)$

\*□(4)  $(-0.12) - (-0.23)$

□(5)  $(+0.35) + (-0.07)$

□(6)  $(-0.54) - (-0.63)$

\*□(7)  $(-1.5) + (+1.25)$

□(8)  $(-3.04) - (+2.3)$

□(9)  $(-5.21) + (+1.12)$

\*□(10)  $(-10.5) - (-1.3)$

□(11)  $(+12.8) + (-1.35)$

□(12)  $(-13.4) - (+1.05)$

**2** 次の計算をなさい。

\*□(1)  $(-\frac{1}{3}) + (-\frac{2}{3})$

□(2)  $(+\frac{4}{7}) - (-\frac{6}{7})$

□(3)  $(-\frac{5}{8}) + (+\frac{3}{8})$

\*□(4)  $(-\frac{22}{5}) - (+\frac{26}{5})$

□(5)  $(+\frac{55}{9}) + (-\frac{17}{9})$

□(6)  $(-\frac{25}{6}) - (-\frac{5}{6})$

\*□(7)  $(+\frac{1}{4}) + (-\frac{2}{3})$

□(8)  $(-\frac{4}{5}) - (+\frac{1}{6})$

□(9)  $(+\frac{7}{12}) + (-\frac{5}{16})$

\*□(10)  $(-\frac{3}{2}) - (+\frac{7}{3})$

□(11)  $(-\frac{16}{7}) + (+\frac{8}{5})$

□(12)  $(-\frac{9}{8}) - (+\frac{1}{12})$

**3** 次の計算をなさい。

\*□(1)  $-2 + (-9)$

□(2)  $8 - (+2)$

□(3)  $-3 - (-6)$

\*□(4)  $4 - (+0.5)$

□(5)  $-3.7 + (-2.3)$

□(6)  $-1.15 - (-1.73)$

\*□(7)  $\frac{4}{5} + (-\frac{2}{3})$

□(8)  $-\frac{1}{2} - (-\frac{3}{4})$

□(9)  $-\frac{5}{6} - (+\frac{1}{2})$

**4** 次の計算をなさい。

\*□(1)  $12 - 15$

□(2)  $-14 + 21$

□(3)  $-11 + 4$

\*□(4)  $-10.6 + 0.5$

□(5)  $-6.3 - 0.25$

□(6)  $4.3 - 12.01$

\*□(7)  $\frac{3}{4} - \frac{4}{5}$

□(8)  $-\frac{1}{5} - \frac{5}{6}$

□(9)  $-\frac{3}{8} + \frac{7}{12}$